

美川村二十年誌編集委員

委員長 新谷 優 (美川村 長)

副委員長 村上 清章 (美川村議会議長)

〃 山下 傳三郎 (美川村 助役)

編集主任 土居 武男 (編集事務局 長)

〃 副主任 高岡 忠義 (総務 主任)

顧問 伊藤 藤義一 (愛媛県史編纂委員)

第一部 美川村の歩み

第一編 美川村の環境

部門長 菅野 保夫 (美川中央中校長)

副部門長 山口 勝美 (美川中央中教頭)

第二編 美川村の誕生

部門長 伊藤 藤義一 (愛媛県史編纂委員)

副部門長 岡道 一 (美川村収入役)

第三編 行財政

部門長 岡道 一 (美川村収入役)

委員 土居 武男 (編集事務局 長)

〃 高岡 忠義 (総務 主任)

〃 下方 音数 (税務 主任)

〃 土居 一太 (会計 主任)

第四編 産業経済

部門長 大野 和男 (産業建設課長)

委員 小倉 衛 (産業 主任)

〃 古谷 淳一郎 (農地 主任)

〃 新谷 養一郎 (久万農協美川支所長)

〃 栗下 宗孝 (美川村森林組合主任)

〃 一宮 照昌 (商工会指導員)

第五編 土木・交通・国土調査

部門長 中山 義正 (国土調査課長)

委員 篠原 拓 (国土調査主任)

〃 大上 輝雄 (建設 主任)

第六編 通信・生活上・町村計画

部門長 久保 若松 (企画観光課長)

委員 堀尾 忍 (企画 主任)

第七編 教育・文化

部門長 木下久敬 (教育長)

委員 黒田英雄 (前教育長)

委員 畝繁雄 (教委主任)

委員 田中盛重 (社会教育主事)

委員 坂田清 (教委主事)

委員 小田原英雄 (住民課長)

委員 西森強 (厚生主任)

第九編 治安と消防

部門長 大野清一 (消防団長)

第一〇編 信仰と社寺

部門長 野口多喜夫 (美川西小校長)

第二編 観光

部門長 久保若松 (企画観光課長)

第二部 旧村の沿革

第一編 久万山の歴史

部門長 伊藤義一 (愛媛県史編纂委員)

第二編 弘形村

部門長 川崎清規 (東川小校長)

副部門長 元川義信 (美川南小教頭)

委員 山内良正 (美川西小教諭)

第三編 仕七川村

部門長 木村忠 (仕七川小校長)

副部門長 土井幹彦 (仕七川小教頭)

委員 猪上達勇 (仕七川小教諭)

第四編 中津村

部門長 相原芳愛 (二箇小校長)

副部門長 田本芳夫 (仕七川中教頭)

委員 武市博強 (黒藤川中教頭)

委員 窪田博繼 (美川南小教諭)

このたび美川村発足満二〇年の記念事業の一環として「美川村二十年誌」が発刊されることになった。このことについて第一回の編纂委員会が昭和四八年七月一八日に開かれたが、その席上で新谷村長が、

村も合併してから来る五〇年の三月三〇日で満二〇歳になる、その間の行政の実態を記録して残しておきたい。なお旧七川村には村誌が出来ているが旧弘形村、中津村には無いから、この機会に旧村についても集録して後世に残したい。という根本方針を述べ、その結果、美川村二〇年の歩みを第一部とし、旧村の沿革を第二部として集録することに決定した。

爾来この方針にしたがって四六名の委員の資料の収集と検討、数次にわたる会合が行なわれた。しかし古い資料というのは意外に少なく、いきおい古老を訪問して聞き書きなどが行なわれたが、古老の記憶にも限度があり思い違いもあって、真実を伝えない所もある。委員各位のご労苦は並たいていではなかった。それぞれに多忙な本務を持ちながら余暇を利用して資料収集に奔走され、それをもとにして限られた日時の中で、取急ぎ原稿をまとめられたのである。右のような事情のため、本書は内容的にも形式的にも、かなりの無理があったことは否めない。この点、読者の各位にご諒承をお願いしたい。書名についても「美川村誌」とするか、「美川村二十年誌」とするか、委員会で種々論議された。わずか二〇年という新村の記録に美川村誌と名づけることも躊躇され、けっきょく「美川村二十年誌」と命名することにした。

もっとも論議されたのは旧村の人物伝についてであった。古人はともかく、村民の記憶に新しい人や生存者についての人物評価は十人十色で、この人を採ってこの人を採らぬといった根拠について私どもとしては確信が持てない。そのためこ

の際は古人の外は歴代村長のみにとどめることにした。読者各位のご諒承を得たいのである。

なお、集められた原稿は多数の執筆者の手に成ったため、同一事項の重複も多いので、最終段階において思い切って文章の統一と割愛をさせていただいた箇所も多い。この点、委員各位のおゆるしを得たい。

本書の編集については、土居武男氏が事務局長として原稿取りまとめその他、万端の仕事に専念されたし、また本村出身の伊藤義一先生が豊かなご経験を生かされて、終始適切な指導と監修の任に当って下さった。なお、本書を発注した松山印刷有限会社は期日に間に合わせるため、きわめて良心的に困難な仕事を貫徹して立派な本に仕上げられた。ここに委員各位をはじめ以上の方々に深甚の謝意を捧げるものである。

「歴史は鑑である」という。私共は本書によって二〇年の歩みを反省して明日への励みとし、先人の業績をしのぶと共に、これが本村の将来を背負う若い人々のために一つの指標ともなれば幸せであると考えるのである。

昭和五〇年三月

美川村助役
編集副委員長

山下傳三郎

本書に掲載した地図は建設省国土地理院長の承認を得て同院発行の5万分の1、2万5千分の1地形図を複製したものである。

(承認番号) 昭50四復 第53号

昭和五〇年二月二八日印刷

昭和五〇年三月一〇日発行

編集者 美川村二十年誌編集委員会

編集委員長 新谷 優

発行者 愛媛県上浮穴郡 美川 村

印刷者 松山印刷有限公司

松山市木屋町一丁目

